

## 自然再生事業地の取組みについて

### 1. 茅沼地区旧川復元

- ・実施目標：直線化した釧路川の一部を元の蛇行した流れに戻すことにより、
  - － 直線化した釧路川の一部を元の蛇行した流れに戻すことにより、
  - － 川の氾濫による湿原植生の再生
  - － 湿原中心部への土砂の流入などの軽減
  - － 瀬や淵など本来の魚類などの生息環境の復元
  - － 湿原景観の復元
- ・実施内容：旧川の復元、右岸残土の撤去、直線河道の埋め戻し
- ・市民参加モニタリング：水生生物、植生、堆積土壌の調査等を実施

### 2. 達古武地区森林再生

- ・実施理由：釧路湿原流域では 1960 年代以降に単一樹種によるカラマツの一斉造林化が進み、湿原や河川とつながる丘陵地（達古武地域）においても本来生育していた自然林と比べて生態系の質の低下が課題となっている。
- ・実施目標：達古武地域本来のミズナラやダケカンバなどの落葉広葉樹林へと復元することで、豊かな森林生態系を再生します。
- ・実施内容：自然林への再生、土砂流出防止、環境学習（調査体験型プログラム（指標動物の調査など）や作業体験型プログラム（地域産種子の採取など）の開発・実践）

### 3. 雷別地区森林再生

- ・実施理由：雷別地区にある林齢 70 年を越えるトドマツ人工林は平成 12 年に気象害に遭い、立ち枯れが発生し木がなくなった箇所が増え、森林が持つ水質保全や保水機能が低くなっている。
- ・実施目標：シラルトロ沼上流の森林（国有林）からきれいな水を安定的に供給するため郷土樹種であるミズナラ、カシワ、ハルニレ、ヤチダモ等の広葉樹主体の森へ再生する。
- ・実施内容：稚樹や小径木の保全、天然更新、人工植栽、体験型森林づくり活動（市民参加による森林再生箇所の見学や種子採取、苗木づくり等を実施）

### 4. 土砂流入対策〔久著呂川〕

- ・実施理由：流域内での開発や河道のショートカットにより、湿原へ流入する土砂量が増加しています。そのため以前に比べて大量の土砂が湿原で堆積するようになり、湿原植生の変化など湿原生態系への影響がおこっている。
- ・実施目標：流域開発の拡大に伴って増加したと考えられる土砂量を軽減します。具体的には湿原に流入する土砂量を現状から 4 割軽減する。
- ・実施内容：河道の安定化対策、河川沿いの土砂調整地の整備、排水路合流部に沈砂池を整備、水辺林・緩衝帯の整備と保全、湿原流入部に土砂調整池を整備

## 5. 達古武自然再生

- ・実施理由：かつて達古武湖には多様な水生植物が生育しており、水生植物の宝庫であったが、周辺環境の変化により、湖の富栄養化がおこり、アオコの大発生やヒシの繁茂などにより、水生植物をはじめとする生物の多様性が損なわれている状況にある。
- ・実施目標：達古武湖に流入するリンや窒素などの栄養塩類と、ヒシの繁茂による水生植物への影響を低減することにより、ネムロコウホネやヒツジグサなどの多様な水草の生息環境を再生することを目指す。
- ・実施内容：繁茂したヒシの削減、流域からの栄養塩類の流入抑制、市民参加による自然再生の実施（ヒシの刈り取り等）

## 6. 幌呂地区湿原再生

- ・実施理由：1970年代から同地区では湿原を農地として活用するために、幌呂川の切り替えや明渠排水路の整備が行われ、これにより農業生産の向上が図られた一方で、冠水頻度の減少や地下水位の低下がおこき、周辺の湿原の乾燥化による植生の変化がおこっている。
- ・実施目標：未利用地の再湿原化とハンオキの成長抑制を行ない、湿原の再生を目指す。
- ・実施内容：未利用排水路の埋め戻し、地盤の切り下げ、
- ・期待される効果：未利用地の再湿原化、ハンノキの成長抑制
- ・市民参加：モニタリングによる効果の検証（ハンノキ林調査）、現地見学会の実施（現場見学会やヨシの移植作業）